

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 名 称   | 碧雲荘（旧熊本家住宅）主屋<br>へきうんそう（きゅうくまもとけじゅうたく）しゅおく |
| 2. 員 数   | 1 棟  |
| 3. 住 所   | 長崎県壱岐市石田町石田西触字白水 1 4 8 6 - 1               |
| 4. 構造形式  | 木造平屋建、瓦葺                                   |
| 規 模      | 建築面積 272m <sup>2</sup>                     |
| 5. 所有者氏名 | 壱岐市  |
| 6. 建築年代  | 昭和 16 年                                    |
| 7. 価 値   |  |

九州本土と対馬の間に位置する壱岐島の南東部にある印通寺港を見下ろすことができる高台に熊本利平(1879-1968)によって建てられた住宅である。玄関脇の石碑には、「昭和 14 年 3 月 1 日起工／設計 森山松之助／監督 中間新治／棟梁 藤田宇一」とある。

碧雲荘が建てられる以前は旧石田村役場であったが、熊本がその地を譲り受け、周囲の土地を買入れて宅地を広げていった。熊本は関東在住時に山形有朋の別荘であった「古稀庵」を買入れているが、碧雲荘はその庵に似せて建てたものとされる。碧雲荘の入口は南で 2 重の石垣があり、その間を逆 S 字に坂を上り、門を通ると左に主屋がみえる。

主屋は玄関を東に配し、向かって左側に洋風の応接間を置く。中庭を取り囲むようにしてコの字型に廊下を巡らし、その周囲に多数の部屋を配した造りとなっており、洋間を付随する点を特徴とする。南側の洋間は応接間となっており、寄木張りの床に絨毯を敷き、一部出窓風に柵を付けるなどしているが、全体としては日本建築の特徴を基調とした和洋折衷的な室内意匠となっている。また座敷は全体的に数寄屋造り風に仕上げられており、欄干には繊細なすかし細工が嵌められている。

また北側には脇玄関を介して内向きの部屋を並べている。

なお現在は碧雲荘の一部が石田総合福祉センター建物と直結しており、利用もなされているが、昭和前期の豪華な和風住宅として良好な状態を保ち、またその価値は高い。

当主屋は、登録有形文化財登録基準「造形の規範となっているもの」に該当する。

